

TSIHD

「品質情報展」開催 商標権などに焦点

海洋ゴミ問題などSDGs関連も

TSIホールディングス(H)は7月19、20日、品質に関する情報を社内共有する「品質情報展」を本社で開いた。品質

管理課(品管)

の主催だが、昨今欠かせなくなってきたSDGs(持続可能な開発目標)に関する取り組みも併せて展示、従業員への啓蒙に役立てた。今回は従業員が頻繁に訪れる1階力タメエリアで開いたこともあり、大幅に来場が増えたという。

本社1階のエンタメエリアで開催、気軽に足を運べるよう工夫した

品管が今回クローズアップしたのは海洋ゴミ(マイクロプラスチック)と商標権の問題。海洋ゴミとアパレルは一見、結びつきにくいのが、洗濯機のフィルターから回収できない合繊の繊維ですが海洋に流れ出ている可能性があるという。くすが流れ出にくい高密度の洗濯ネットを活用するのが有効と指摘、ネットは洋服へのダメージを軽減し長持ちもするため世の風潮にも合致するとした。

側に残る商標権の侵害リスクに注意を払う必要があると説いた。実際、社内でも販売寸前までいったケースもあったという。グリーンウォッシュ(見せかけの環境保護)についても言及。フランスなど国によっては「カーボンニュートラル」などを広告でうたってはいけないことなどいくつかを例示した。欧州で売れている「アンドワンダー」は、販売国基準に合わせて包装を別注品に変更しているという。

その他、品管の本分である不良品を減らす目的で検品制度の運用を3月から改善していることを告知したほか、ブランド・事業部ごとだった顧客の声やクレームの一部を掲示、全社で共有できるようにした。SDGs

商標権は国ごとに対応が異なる点や、簡易的に商標登録の有無をオンラインで調べられる方法などを紹介した。最近注目されているリメイク品やアップサイクル商品についても注意を喚起。中古品であってもブランド

関連では、グループ会社のトスカパノックの環境に配慮した副資材の展示や、業務提携先のフードリボンや協業する繊維育英会との取り組み、インドでの有機栽培綿開発プロジェクトなどを紹介した。

